

ルピナス会本部事業報告

令和元年から執拗に続くコロナ禍に、令和3年度本部事業も大きく計画の取り止めや変更を余儀なくされ、終息の見えないウイルスと闘う緊張の1年でありました。

法人内では、何れの施設においてもクラスター発生に至るなどの打撃を被るものは無く、食い止めに成功しております。ただし、一部において家族罹患などにともない、濃密接触者として自宅待機を余儀なくされた職員や発熱などの近似した症状の発症を受けて警戒の休暇をとった職員、隔離による警戒措置をとった利用者様などが散発的に出現致しましたが、何れも法人で定めた基準をもとに厳格な陰性を確認後、通常復帰の措置をとっております。

引き続き早期の抗原検査やPCR検査の活用をはじめ、現場の知恵から生まれる、できる対策を中断無く継続して参りますとともに、コロナ禍で従事する職員への処遇につきましても継続して十分に伝えていきたいと考えております。

幸いなことに財務的な影響につきましても、国の対策もあり、僅少にとどまっております。

本部事業報告につきましては、次のとおりでございます。

(総務課、指導課)

1 理事会・評議員会、指導監査

(1) コロナ禍での理事会は5回、評議員会は3回開催しましたが、昨年と異なり何れの回も対面での開催が可能となり、法人運営上の諸問題について審議をいただき、適切な運営のための承認や決定をいただきました。

(2) 監事監査

本部を含め、各施設等に対する監事監査(5/20)を実施、事業運営の細部について監査をいただきました。

(3) 県実地指導監査

県実地指導 ～ 神川ホーム、鴻巣ホーム

県実地指導 ～ デイサービスセンター

が行われ、何れも大きな指導事項なく順調な運営に対して高評価をいただきましたが、デイサービスにおける指導では、数件の注意指導をいただきました。今後についても指導事項に対する本部指導を強化する方針です。

(4) 各種行事の中止

研修旅行、ボーリング大会、新年会等の例年実施している、法人行事は昨年度同様情勢から全て中止としました。

2 内部業務指導

(1) 例年実施している財務課長、指導課長編成での業務運営上の問題部分に対する指導を随時指導とし、加えてコロナへの防護対策指導を集約一元化して法人内発生に対峙しました。

(2) 指導課業務の一部を労務改善対策室へ移管

新たに設置した「労務改善対策室」に労務上の諸問題に対処する「室長」を配置したことで、従来指導課長の分掌業務とされた同業務を移管致しました。

(財務課、指導課)

- 1 経営状況の分析と指導を実施しました。
 - ア 顧問先税理士事務所に四半期ごとの現況報告及び各施設における経営状況の分析報告を求め、事業運営の判断としました。
 - イ 事業活動収支の比較分析をおこない、翌年の予算配分に反映させました。
- 2 コロナ禍においても職務に取り組む職員への気持ちとして、昨年度同様慰労金の交付を夏ボーナスで、業績良好では冬ボーナスで上乘せし行いました。
- 3 定款、規則、規程関係(変更及び一部改正)の整備適切に実施しました。

(労務改善対策室)

「労務改善対策室」の設置

法人の発展とともに生ずる各種の労務上の諸問題に、遅滞することなく適切に対処することを目的として、理事長直轄の「労務対策室(室長1 労務有資格者)」を新たに設け、働きやすい職場作りを目指しました。

ルピナス園事業報告

はじめに、3年度も COVID19 対策の1年で、利用者様・職員とも3回のワクチン接種に追われつつ、職員家族の所謂濃厚接触者の発現対応など、施設では面会制限を強めたり緩めたり、試行錯誤の継続で凌ぎつつ、制限解除の条件を模索するばかりでありました。

そうした中、以下のとおり事業推進したので報告します。

- 1 職員の資質の向上
特に介護職員には、オンライン研修会への参加や施設内外の研修等により知識と技術の向上に努めました。介護福祉士試験では2名中1名の合格者と、喀痰吸引等では、指導教師認定1名の成果を見せ、認定特定行為 業務従事者認定研修の実習者2名が継続中でありました。
- 2 地域社会との連携
地域に根ざした施設として参画し、町の福祉課題に呼応するとともに、地域ボランティア組織「地域交流ホーム」のルピナス園防災訓練への招請がコロナ禍による目に見えない化に至る抗い、連絡を取り合い防災連携・協力の為に継続しています。
- 3 人材の確保及び職場定着
引き続き労働局推奨の、非正規雇用職員の正規雇用転換の継続を図るべく、「キャリアアップ」制度申請を行い参画しました。
- 4 施設整備について
利用者が心穏やかな生活が送れるよう、環境整備や施設設備機器故障等 に対応すべく、「業務用洗濯機・乾燥機一式入換工事」(6.24)及び、半年も費やした JKA 助成金申請も否採択の結果ながら「特殊機械浴槽等一式入換工事入札」の実施に至り(本年5月設置)出来ました。その他、家族会の協力を得て、利用者には大変に喜ばれております 60型 TV 2台の壁設置 5.27 とディアル動画再生は好評を得ております。
- 5 新型コロナ対策として

新型コロナウイルス感染対策として「職員の検温・手洗い消毒の徹底」「面会の禁止」「職員行動記録」「密閉・密集・密接の厳守」等の対策を継続し、「感染防止手袋」「フェイス・エプロン・ガウン」「マスク・フェイスシールド・ヘアキャップ」「アルコール」など災害と捉えて追加継続し危機感を持って感染防止に努めました。

6 利用者・職員の状況（前年度比）

- (1) 利用者平均年齢
85.6歳（4.2歳減） 最高年齢 102歳（1歳減）
- (2) 入所者数等
 - ・平均入所者数 77.8人（1.3人増）
 - ・平均入所期間 3年8ヶ月（2ヶ月増）
 - 延入所者数 28,404人（472人減）
 - 稼働率 97.2%（1.6%減）
- (3) 入退所状況
入所者数 23人（8人増） 退所者数 21人（12人減）
- (4) 平均介護度
3.7（0.21減）
- (5) 職員の職種・人数等
 - ・事務職 3人（0人）
 - ・相談員 1人（0人）
 - ・介護支援専門員 1人（0人）
 - ・介護職 26人（2人減）
 - ・看護職 4人（0人）
 - ・機能訓練員 1人（0人）
 - ・管理栄養士 1人（0人）
 - ・用務 2人（0人）
 - ・嘱託医師 1人（0人）
 - ・平均年齢 49歳10月

かみさとデイサービスセンター事業報告

今年度も、新型コロナウイルス禍が収まらず、外部との接触を断つことの出来ない通所事業において、大きな脅威となっておりますが、職員が一丸となり、手洗い、消毒、換気、ソーシャルディスタンスに努めるなどの対策を実施しました。また、利用者様及びご家族には、通所日だけではなく、デイサービスを利用しない日々の検温や体調変化を記録していただくなど、ご協力をお願いし、感染対策の徹底を図った結果、職員、利用者様ともに感染者を出さずに済みました。

業務面では、令和2年度より開設した指定障害福祉サービス事業所生活介護（共生型）が2年目に入り、利用者が初年度の延べ114名から325名と3倍近くに増加するなど、順調に推移しています。さらに、理学療法士等によるサーキットリハビリについても、利用者様から良い評価をいただき本年度も積極的に実施いたしました。また、認知症予防対策として「歌体操」「知的プリント」「各工作」「各ゲーム」等を継続実施し、利用者様の集中力等の変化を把握するとともに予防対策に役立てました。又、利用者様ニーズに伴い重度利用者の受入も積極的に行いました。さらに、各季節に合わせたレク（花見・運動会・クリスマス会・誕生会等）の開催や、カラオケ機器も利用者様に大変喜ばれております。

しかし、利用者数については、前年比マイナス22名となり稼働率も5割を下回ってしまいました。このため、周辺の居宅支援事業者様に個別のお願いをしたほか、ケアマネージャーの研修会に出席させていただき、当所の特徴である共生型事業所や機械浴についての案内をさせていただくなど、利用者拡大に努めました。

① 利用者状況(対前年比)

	令和2年度	令和3年度	増減
利用者人数の合計	2,788人	2,766人	△22人
稼働率	45.7%	45.3%	△0.4%
平均利用者数/1日	11.2人	11.1人	△0.1人

② 男女別利用者数 2,766人 男性1,340人 女性1,426人

③ 介護度別利用者数 3月31日現在

総合事業 5名 要支援1 4名 要支援2 8名 要介護1 15名
 要介護2 5名 要介護3 6名 要介護4 14名 要介護5 3名 計60名
 平均年齢 81.5歳 最高利用者年齢 96歳

④ 職員職種・人数

	前年対比
管理者 1名常勤	0人
相談員 1名常勤	0人
機能訓練指導員 1名常勤兼務	0人
看護師(准) 2名(非常勤1、派遣1)	+1人
介護職員 5名(非常勤4、派遣1)	+3人

かみさと居宅介護支援事業所事業報告

令和3年度はコロナ対策を徹底、ITを利用し利用者様に対応しました。
 Z o o mで施設合同会議開催し、意見をいただき個々のニーズに合ったケアプラン作成と地域の方々とのコンセンサスを密に図り、利用者様・ご家族との信頼につながるよう推進しました。各施設、各市町村行政へ新規利用者の増加依頼をお願いしました。

ケアプラン作成状況

利用延べ人数は、1,008人(令和2年988人、令和3年プラス20人)、
 登録者数114人(令和2年101人、令和3年プラス13名)で推移しました。

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
要支援	260	235	236	+1
要介護1.2	658	690	778	+88
要介護3.4.5	249	298	236	-62
延べ人数	907	988	1008	+20
登録者数	100	101	114	+13

登録者数内訳

総合事業	0人	要支援1	9人	要支援2	12人	要介護1	40人
要介護2	23人	要介護3	9人	要介護4	14人	要介護5	7人

ルピナス神川ホーム事業報告

昨年度に続き年度初めからコロナ諸対策に振り回され続け、職員や利用者の罹患はなかったものの、職員家族が濃厚接触者と認定されたことからの自宅待機など散發ではあるものの緊張の中での施設運営でありました。

神川ホームにおける事業報告については、次のとおりです。

1 生活介護、入所支援の充実

利用者様の希望を尊重した綿密な個別支援計画にもとづく、サービスの実現やその評価に努めました。しかし、限りある条件下での一部の計画（継続的に実施していた外出レクや買い物等）の外出をとまなう行事は、情勢から中止とし、食事会やゲーム大会などの屋内行事に切り換えて行いました。

2 今後も経験するであろう異質の感染症までを意識した、新たな生活様式の取り入れと困難な条件下での利用者受け入れ

施設生活での質を維持すべく、リモート面談やリモート会議、日々の食事スタイル、換気の定例化、密にならない行事の進め方、屋外行事の取り入れなど新しい施設生活様式の日常化に努めるとともに、コロナ下での利用者受け入れについても、地域貢献を優先し個別具体的な目線で入所が了承できるよう努めました。

3 災害（火災、地震、水害等）に対する対応力の強化

建物、機械、防災用具などの点検整備を定期的実施するとともに防災計画に基づく消防官立ち会い（コロナ禍により第1回のみ）による訓練（年2回、昼間、夜間想定）、緊急連絡網訓練、神川町環境防災課協力による土砂災害対応訓練（ナーシングホーム協力による避難輸送訓練）を実施し、有事に備えた安全対策に努めました。

4 各種委員会活動を中心にリスク管理能力の向上

昨年に続き適切な処遇の実践と高レベル化を目途に、課題に特化し解決出来る能力を持った委員会の育成と運営に努めて参りました。特に今日的な課題である「感染症問題」「虐待問題」については、アンケートなどにより現場の現状を分析したり、部内外の講師を招請し、研修を強化するなどの取り組みを実践しました。また、コロナ問題に特化するかたちで、別途コロナ対策に関する任務を帯びた委員会（連絡調整研究班、運営研究班、医務感染防止班等7委員会）は、コロナ情勢の推移に対応する取り組みを継続しました。

5 働きがいのある職場づくりと人材の育成

マイナス要因である施設内の諸問題を排除し、風通しの良い職場の気風づくりに努めるとともに、職員の成長に結びつく積極的な研修や人材の育成を図りました。ただし、多くの研修がリモートによる方式であったことから、教養効果につ

いては目標に満たなかったことが感じられる。

6 相談支援について

支援者面接など大幅に活動を制限されましたが、リモート会議の導入などで時間を節約し、また面接方法の工夫により時間や回数の確保に努めました。

7 利用者状況（令和3年4月1日から令和4年3月31日）

- ・ 総入所数 男性 34人 女性 16人 総利用者数 17,749(昨年比+42)人
- ・ 入退所数 入所数 男性 2人 女性 0人
退所数 男性 1人 女性 0人
- ・ 平均年齢 60.2歳 最高年齢 85歳 最低年齢 23歳
- ・ 平均障害支援区分 5.6(昨年 5.5)

かみさとナーシングホーム事業報告

令和3年度も引き続き施設内のコロナウイルスの感染防止対策を徹底し日々清掃、消毒、利用者、スタッフの健康管理を図りました。その中で、在宅復帰、在宅生活支援を強化し、特に訪問リハビリテーションの受入れを推進した事で大幅な利用件数の増加に繋がりました。行政、医療機関、居宅支援事業所からの相談についても迅速に対応し在宅強化型施設として地域支援を行いました。

1 地域連携

介護教室は1回実施。

地域ケア会議への参加。面会はリモートにて実施しました。

文化祭等の行事は各フロアで実施しました。慰問は限定し受入れました。

2 職員研修

職員研修は、Webを用いた研修や書面に加え人数を絞り参加型での研修も実施しました。

3 利用者支援

入所・通所・訪問リハビリについて担当ケアマネ、リハビリスタッフが居宅訪問を行い、在宅復帰や在宅生活継続を目的に計画を作成しました。結果、在宅復帰率も30～40%、ベッド回転率10%維持し、デイケア利用者からの入所と入所からデイケアや訪問リハビリテーション、ショートステイの利用に繋がりました。担当のリハビリスタッフが退所後も継続して支援する件数が増えました。

4 災害対策

消火訓練及び避難訓練、水害対策訓練を実施しました。消防の立ち合いは2年ぶり実施。BCP（事業継続計画）作成中です。

5 利用者状況

(1) 稼働率(前年比)

入所・短期入所 91.3% (前年比 99.7%)
通所リハビリ 94.5% (前年比 102%)
訪問リハビリ 延べ人数 2,594 人 (前年比 187%)

(2) 平均年齢 86.6 歳

(3) 平均介護度

入所・短期入所 要介護 3.0 通所リハビリ 要介護 2.0
訪問リハビリ 要介護 2.2

(4) 平均入所日数 393 日

6 居宅支援事業所

地域包括ケア推進・実践の為、本人・家族との相談支援を行い、ケアプランの作成や行政、医療機関、サービス事業所、地域と連絡調整や協力を行いました。また、リモートで上里居宅と合同の研修を月 1 回実施しました。

担当延べ件数 2,138 件

かみさとナーシングステーション事業報告

1 事業概要

昨年度より延べ人数増加し障害サービスを開始となり利用件数は増加しました。利用者へのニーズに応え、引き続き地域ケアシステムの重要な位置づけとし訪問介護事業を展開していきます。

介護 3,402 件 (39 件増) 障害 128 (73 件増)

2 体制状況

常勤職員 4 名

3 職員研修 (老健と同時に行う事ができました)

ルピナス鴻巣ホーム事業報告

新型コロナウイルスなどの感染症防止対策の徹底、不測の事態が発生した場合においてもサービス提供が継続できる体制の確保等、利用者が安心・安全に生活できる事業を最優先に実施しました。

1 新型コロナウイルスやノロウイルスなどの感染症防止対策の徹底

手指消毒・マスク着用・検温など基本の徹底、感染対応マニュアルの周知、各

種研修、ガウン着脱訓練等を実施しました。

飛沫防止カーテンの設置、自動水栓工事等を実施しました。

2 生活介護・入所支援に対する質の高いサービスの提供

利用者のニーズの把握とニーズに沿ったテイクアウトランチ・余暇支援等コロナ禍でも実施できる工夫した各種イベントの充実に努めました。

3 職員の資質の向上と人材確保

部外研修への参加や施設内の研修や委員会を実施しました。

令和3年度の退職者1名、入職者1名でした。

4 施設整備

計画的な備品購入(感染症対策備品の購入、食堂テーブル購入、会計ソフトの購入、利用者家具の入れ替え)等や扉の修繕、スロープ設置などの修理等を実施しました。給湯器交換は全国的な部品不足のため実施できず、次年度へと繰り越すこととしました。

5 災害対策等

「防火避難訓練」や「非常災害時訓練」を実施しました。非常用食料の追加備蓄(3日分から5日分への備蓄)を実施しました。

刺股を使用した不審者対応訓練も実施しました。

6 地域貢献活動

引き続き「彩の国あんしんセーフティネット事業」を継続しました。

実績～令和4年3月3日 生活困窮者への支援実施

7 その他

- 利用者 男性 36名 女性 14名 平均障害区分～5.32
平均年齢 49.52歳 (最高年齢 75歳 最低年齢 29歳)
退所者及び入所者なし
- 職員 42名 (男性のパート職員 退職者1名、入職者1名)
男性 17名、女性 25名

相談支援事業所ルピナス本庄事業報告

平成30年8月1日に開設した相談支援事業所ルピナス本庄は、3年8ヶ月の運営期間が経過しました。「チームでの相談支援」をモットーに掲げ、複数の相談支援スタッフが、それぞれの強みを活かした幅広い視点でサポートすることにより、切れ目のない継続的な相談支援を実践しました。また、相談支援スタッフが、お互いに相談できる体制となっているため、対応に迷うようなケースでも、1人で抱え込む

ことなく、相談・協力しながら対応できています。令和3年度の主な事業内容は次のとおりでありました。

1 チーム支援による他の相談支援事業所との差別化

多様な相談支援スタッフを配置し、利用者、各事業者、市町村等からの困難な相談にもチームで協力して向き合いました。専任の相談支援専門員3名、パート相談員2名（内1名は令和3年9月採用、内1名は令和4年1月から産休・育休開始）を配置し、本庄児玉圏域では唯一の特定事業所加算、主任相談支援専門員配置体制加算、行動障害者支援体制加算、精神障害者支援体制加算、及び要医療児者支援体制加算を算定できる体制を維持しました。また、法人内相談支援スタッフ7名でのリモート会議を開催し、利用者状況の共有、支援の検討や検証を行いました。

2 質の高い相談体制及び利用計画等の作成

1 回数十分程度の短時間だが、事業所内で、スタッフ勉強会の時間を設定しました。内容は相談援助技術の向上、虐待防止の取組み、チームづくりの方法、ルピナス本庄のブランディング等と多岐に渡りました。回数にして25回を超え、コロナ禍で不足しがちなスタッフ同士のコミュニケーションの場にもなりました。

3 地域との信頼関係形成と地域づくり

コロナ禍ではあるが、感染対策を徹底した上で、「可能な限り足を運ぶ支援」を心がけつつ、利用者さん等の希望や状況によりリモートでの面談や支援会議も行いました。転送電話機能を用いて24時間可能な限り電話にできる相談体制も継続し、いつでも繋がることのできる相談支援事業所となるよう努めました。

4 効率化を念頭に置いた事業運営

事業の実施地域を本庄児玉圏域内に絞ることで、訪問・連絡調整等において効率的な事業運営ができました。また、結果的にそのことが、より一層地域密着の事業運営となり、地域への貢献にもつながりました。

5 その他

- ・契約者数令和4年3月障害者167名（前年比-7）障害児23名（前年比+14）
- ・令和3年8月11日、ほんじょうFMラジオ「福祉とは？」出演。